

雇用状況・労働力不足状況の現状、農家の現状、労働力不足期間の状況について村内農家全戸及び連携先他産地の現状についてアンケート調査を行う。アンケートの結果については、データ化し今後の雇用時のマッチングや産地間リレーのマッチングに使用する。
 昨年度からの連携先農家等との産地間人材リレー協定の締結を目指す

事業実施主体構成員

孺恋キャベツ振興事業協同組合・群馬県農政部農業構造改善課農業者育成係・孺恋村農林振興課・JA孺恋村・孺恋村商工会・孺恋村観光協会・株式会社アイズ・株式会社ウイルテック・中央キャリアネット株式会社・一般社団法人外国人生活保全機構・JICA東京群馬デスク・NPO法人国際比較文化研究所・全国農業会議所

実績値（目標値）

- ①労働力受入担い手農家数：実績値 48戸（目標値 30戸）
- ②労働環境に満足している被雇用者の満足度：実績値90％（目標値95％）
- ③他産地を含む労働力等に関するアンケート調査：実績値600戸うち回答率72%434戸（目標値：130戸回答率90％）
- ④産地間連携人材協定の締結 実績値：1件（目標値：5件）

令和 5 年度取組み内容

今年度の取組み内容
ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等） 1月末までにJA孺恋村、各登録支援機関の協力を得て、孺恋村内の農家300戸、他産地農家300戸を対象に人材が不足する時期、要望する人材の属性、不足人員、宿舍の有無等についてアンケート調査を実施し、村内回答率68%204件、他産地回答率77%230件の回答を得た。現在データ化を進めている。就業期間について、村内では4月上旬～10月末日、5月上旬～10月末日が多く、近年の天候等により4月上旬から必要との回答が大半であった。終業については、概ね10月末日が大半であった。一方他産地においては冬場の就業ができる地域（群馬東部、栃木、茨城、埼玉、静岡、愛媛）を選定したので、概ね10月中旬～3月下旬、10月下旬～5月中旬が大半であった。不足人数については、村内農家では1農家当たり2人～4人が最も多く、若い大規模農家では8人、9人の人材を求めている農家も数件あった。他産地では1人～3人が最も多く、4人以上の要望はあまり見られなかった。 アンケートの結果、時期的なものについては、1か月ほどの重複であれば調整可能と判断している。他産地について、今回調査対象とした農家が比較的小規模農家が多く、5か月以内の短期の要望が多く従来外国人を雇用したことのない農家が多かったため、宿舍の無い農家も多くみられた。また、外国人を雇用するのに言葉を含めて生活習慣など不安があるとのことであった。 今年、事務局マイファームの紹介により和歌山県に加茂川協議会と連携し、試験的に4名の特定技能外国人を転職させたが、農家の方も外国人本人も非常に高評価であった。今後も継続していきたいと考えている。 昨年産地間人材リレー協定を結んだ宮崎県についても高評価であり、富山県の干柿農家については、昨年度8名、今年度10名と徐々に人員を増やしている状況である。
イ 産地内での労働力確保・育成

今年度の取組み内容
ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保 <他産地と連携した労働力確保> 本村の収穫期終了後10月下旬より、富山県干柿農家へ10名を転職、11月より、昨年度産地間人材リレー協定を結んだ宮崎県農業法人経営者会に12名を転職、和歌山県加茂川協議会の2軒のみかん農家に4名を転職、群馬県東部の冬野菜農家10軒に16名を転職、その他静岡県、茨城県、埼玉県に計20名を転職させ、今年の3月下旬より随時孺恋村の農家に戻ってくるよう調整をしている。
エ 労働力等のマッチング及びデータベース化 1月末日までに孺恋村内の農家300戸、他産地の農家300戸を対象に人材が不足する時期、要望する人材の属性、不足人数、宿舍の有無等についてアンケート調査を実施。村内204戸、他産地230の回答を得た。現在データ化を進めている。 今年はアンケート調査の他、孺恋村農家の紹介により、香川県、高知県、群馬県安中市、沼田市などの農家に訪問しヒアリングを行った。終業時期的には産地間リレーが十分にできると考え、今年度より詳細の調整を行い11月には転職させたいと考えている。 今後も他産地データを増やすべく、冬野菜の農家のある所を全国的に探していこうと考えている。各産地のJA等に問い合わせても小規模農家の状況が把握しきれないので、情報を得たら実際に訪問しヒアリングを行おうと考えている。 今回実際に配属してみて、特定技能外国人の日本語能力があれば、外国人自体はどのような作物でも十分に対応でき、できれば産地間連携により継続的に同じ農家で就業することにより、作業効率も向上し、農家も外国人も双方に良い施策であると考えている。 今回のアンケートで小規模、短期間の農家が多かったので、現状宿舍の無い農家が多く、今後の課題となっている。
オ 農業の「働き方改革」への取組

本事業取組みにおける成果項目

本事業により、昨年度は宮崎県の農業法人経営者協会との産地間人材リレー協定が締結され、富山県の干柿農家との連携が2年目を迎えるなど将来的に希望が見えてきており、今年度については、和歌山県の加茂川協議会との連携によりみかん農家への配属が叶うなど、少しずつ前に進んでいると考えている。今後は村内と他産地の農家同士の産地間人材リレー協定を締結するべく努力していく。

以上の取り組みにより、農家はもちろんのこと特定技能外国人も安心して就業できる環境が整えられると考えている。

次年度以降の取組み内容

次年度以降も孺恋村の就業期間とうまくマッチングできる他産地農家を検索し、こまめにヒアリング等を行いながら、スムーズな産地間の人材リレーができるよう努力していく。

また、組合同士の協定を含めて、個別農家同士の産地間人材リレー協定の締結を、随時行っていきたいと考えている。

協定書の締結による転職時の申請書類の緩和もJAや村との連携により地方入国管理局など関係省庁に対して訴えていきたいと考えている。